

平成 30 年度事業系一般廃棄物管理責任者研修会について

本研修会は、延床面積 3000 平方メートル以上または一般廃棄物を月 3 トン以上排出する多量排出事業所の一般廃棄物管理責任者を対象に実施しています。平成 30 年度は、以下のとおり実施しました。

開催日時 平成 30 年度（2018 年）7 月 26 日（木）14 時～16 時 20 分

開催場所 豊中市立 eMIRAIE 環境交流センター大会議室

テーマ 『気象データを用いた商品需要予測による食品ロス削減』

概要 高精度の気象予測データと POS データ（販売データ）などのビッグデータを、AI などの最新技術を使い解析することで、未来に必要なモノの量を予測する商品需要予測サービスの事業を行っている一般財団法人 日本気象協会の職員を講師としてお招きし、本事業について食品ロス削減に焦点をあて講演いただきました。

講師 一般財団法人 日本気象協会 関西支社 防災ソリューション事業課 山本 翔 様

参加人数 40 人

参加者の声（研修会後のアンケートより）

- ・『メーカー』『卸』『消費者』のそれぞれの観点で食品ロス削減を考えるヒントの一つとして気象データは有効であると感じた。
- ・『気象データ』『消費者の心理（SNS のデータ）』『POS データ（販売実績）』を合わせて解析し、商品の生産、発注予測等することで『事業者の利益』『ごみの減量』に結びつくという、大変興味深いお話が聞けました。
- ・気象データにより、需要予測を行うことで、ごみの削減になることが良くわかりました。
- ・気象データと食品ロス削減とのつながりについて非常に勉強になりました。弊社の製造計画において活用できればと思えた。
- ・普段テレビやネットで目にする気象データと、需要予測に用いる細分化された気象データとの違いに驚きました。様々な事業で活用できると感じた。

